令和6年度　催し物案内

岐阜市歴史博物館
加藤栄三・東一 記念美術館
原三溪記念室

●岐阜市歴史博物館

〒500-8003　岐阜市大宮町2丁目18番地1（岐阜公園内）TEL(058)265-0010　FAX(058)265-0106

ホームページ
https://www.rekihaku.gifu.gifu.jp/

1　階　特別展・企画展

展覧会名（会期）	休館日	内容
●企画展 **ここまでわかった！岐阜の古墳** ～ 5月26日(日)	4/1・8・15・22・5/7・13・20	3世紀中頃から7世紀末頃にかけて、日本各地で多数の古墳が築かれました。岐阜県内においても、3世紀中～後半には前方後方墳が造られ始め、その後前方後円墳が築かれるようになります。画一的な前方後円墳の築造は、畿内を中心とするヤマト政権との結びつきを示すものであり、その大きさや形状から国家的身分秩序を打ち出した政治史的な画期だと考えられています。古墳時代後期に入ると小規模な円墳が増えるとともに、多くの群集墳が築かれます。 また、墳形や埋葬施設、墳丘に供される埴輪や埋葬施設に納められる副葬品も400年の間で大きく変容します。 本展では、近年の発掘調査の成果もふまえた美濃の古墳を紹介します。
総合展示のみ 5/28 ～ 6/7　休館日 5/27・6/3		
●歴博セレクション **海を渡った漆器 ー南蛮漆器の世界ー** 6月8日(土) ～ 7月15日(月・祝)	6/10・17・24・7/1・8	16世紀半ば、ポルトガル人が種子島に漂着し、日本とヨーロッパ（南蛮）との直接の交流が始まると、キリスト教宣教師が作らせた漆塗りの宗教用具がヨーロッパで人気を博しました。安土桃山時代の終わりから江戸時代初期にかけて日本国内でヨーロッパ向けの生活調度品が生産され、大量の製品が海外へ輸出されるようになりました。また、国内向けにもヨーロッパ文化の影響を受けた異国趣味の製品が作られました。南蛮漆器と呼ばれるこれらの漆器には、当時盛んに作られた高台寺蒔絵の技術に朝鮮の螺鈿の技術が新たに取り入れられ、それまでの伝統的な作風とは異なる意匠や技法を用いた独特な作品となりました。 わずか50年ほどの短い間ですが、日本・ヨーロッパの双方にとって東西文化交流の中心でもあった南蛮漆器の魅力をご紹介します。
総合展示のみ 7/17 ～ 8/2　休館日 7/16・22・29		
●企画展 **火の用心！** ～ 岐阜の消防400年のあゆみ ～ 8月3日(土) ～ 9月16日(月・祝)	8/5・19・26・9/2・9	火災などから、私たちの命や暮らしを守る「消防」。その歴史は、遠く江戸時代にまでさかのぼります。「火事と喧嘩は江戸の華」という言葉があるように、当時の江戸での火消の活躍は有名ですが、そのころの岐阜でも火消たちの存在はなくてはならないものでした。その後、近代の消防組・警防団などの組織を経て、戦後に「自治体消防」と呼ばれる現代の消防体制が整備されていきます。 本展では、岐阜市やその周辺に残る江戸時代以降の消防用具や歴史資料を一堂に集め、岐阜の消防の歴史を紐解きます。また、本展に合わせ、会期中には岐阜市消防本部と連携した関連イベントも開催する予定です（詳細は随時ホームページなどで告知いたします）。
総合展示のみ 9/18 ～ 10/11　休館日 9/17・24・30・10/7		
●特別展 **「清流の国ぎふ」文化祭2024関連特別展 つなぐ** 10月12日(土) ～ 11月24日(日)	10/15・21・28・11/5・11・18	「おもしろうてやがて悲しき鵜舟かな」 これは、貞享5年（1688）に岐阜町の町人に招かれた松尾芭蕉が鵜飼を観覧した後に詠んだ句です。古くから、東山道や中山道などの主要街道が東西に走っていた岐阜には、多くの文人たちが訪れ、その印象を歌や絵にしたためてきました。 本展では、こうした旅人たちが残した紀行文や絵画作品、絵図などを展観し、旅人たちの視点で岐阜の魅力に迫ります。また、連歌や俳諧、漢詩など、江戸や上方などからもたらされた文化にも焦点を当て、道がつないだ交遊を紐解きます。
総合展示のみ 11/26 ～ 12/12　休館日 11/25・12/2・9		
●企画展 **ちょっと昔の道具たち** 12月13日(金) ～ 令和7年3月9日(日)	12/16・23・12/28 ～ 1/3・6・14・20・27・2/3・10・12・17・25・3/3	150 ～ 40年くらい前に使われていた「ちょっと昔」の道具を一堂に集め、当時の暮らしの様子を紹介する展覧会。身近な生活道具がどのように変化を重ねてきたのかを豊富な資料から知ることができます。また、昭和の「まちかど」や「家のなか」の様子をジオラマ展示で再現しており、まるでタイムスリップしたかのように当時の情景を体感できます。 今年で29回目を迎える恒例の展覧会ですが、ジオラマ展示の内容や展示する資料には毎年少しずつ変化を加えています。実際に手で触れて体験できる展示資料も多くあり、子どもから大人まで幅広い世代でお楽しみいただける展覧会です。
総合展示のみ 3/11 ～ 3/28　休館日 3/10・17[redacted]・21・24		
●企画展 **実りの考古学** ～ 美濃の農耕のあかし ～ 3月29日(土) ～	3/31	美濃地域は弥生時代の早くから稲作の技術が伝わり、稲作が営まれてきました。今宿遺跡や荒尾南遺跡、米野遺跡など西濃地域の遺跡から弥生時代の稲作に関わる遺構や用いられた農具などが多く見つかっています。また、可児市の柿田遺跡からは、いくつもの水制遺構が見つかり、灌漑施設を伴った農耕を行っていたことが分かっています。 本展では、美濃地域で出土した農耕に関わる遺構や用いられた農具を取り上げ、弥生時代以降の人びとが米などの植物をどのように栽培・管理し、収穫したのか、美濃地域の農耕について紹介します。

2　階　総合展示（常設展）

コーナー名	内容
ぎふ歴史物語	原始 ～ 現代の通史展示。楽市場の再現や「天下鳥瞰絵巻」など、戦国時代の臨場感あふれる展示のほか、見学者が操作できる情報端末や体験学習のコーナーがあります。
伝統の技と美	和傘・提灯・団扇など、岐阜の伝統工芸の展示コーナー。映像により、それぞれの製作工程もご覧いただけます。
特集展示	いろいろなテーマで年に何回か開催するミニ企画展。そのほか規模の大きな特別展・企画展の第2会場にもなります。内容については、歴史博物館ホームページ等をご覧ください。

講　座

名称	対象・定員	内容	受講料等	申込開始	申込締切	
■はじめての古文書	一般 40人	10/17(木) 14:00 ～ 15:30 ①かなを読むⅠ　10/24(木) 14:00 ～ 15:30 ②かなを読むⅡ　10/31(木) 14:00 ～ 15:30 ③かなを読むⅡ 11/7(木) 14:00 ～ 15:30 ④漢字を読むⅠ　11/14(木) 14:00 ～ 15:30 ⑤漢字を読むⅡ　11/21(木) 14:00 ～ 15:30 ⑥漢字を読むⅢ 講師：歴史博物館学芸員	受講料 1,000円	7/17	9/17	web または往復はがきで申込
■岐阜提灯を作る	一般 10人	11/13(水) 9:30 ～ 15:30 ①絵紙をする　11/14(木) 10:00 ～ 15:30 ②ひごをまき、紙を張る　11/15(金) 10:00 ～ 12:00 ③仕上げをする 講師：岐阜提灯協同組合のみなさん	受講料 3,000円（材料費込）	8/13	10/13	
■岐阜和傘を作る	中学生以上 10人	1/12(日) 13:00 ～ 16:30 ①つなぎをする　1/18(土) 9:30 ～ 17:00 1/19(日) 13:00 ～ 16:00 ②③紙を張る　3/2(日) 13:00 ～ 15:30 ④かがりをする 講師：和傘職人のみなさん　協力：一般社団法人岐阜和傘協会	受講料 26,000円（材料費込）	10/12	12/12	
〈子ども体験コース〉■子ども歴史講座（教科書に出てくる歴史を体験しよう）※保護者と参加可 ※小学校1・2年生は、必ず保護者と参加	小中学生 15人	6/2(日) 13:30 ～ 16:00 ①信長の時代：信長も好んだ茶の湯を体験しよう	受講料 各回200円（材料費込）	4/1	5/2	
	小中学生 15人	6/29(土) 9:30 ～ 12:00 ②文字と本の歴史：昔の本を調べて、和とじ本のノートを作ろう			5/29	
	小中学生 15人	7/13(土) 9:30 ～ 12:00 ③ちょうせん！大むかしのくらし アクセサリーやミニチュア土器を作ろう！			6/13	
	小中学生 15人	10/6(日) 9:30 ～ 12:00 ④岐阜町たんけん：古い町並みや職人さんを訪ねよう			9/6	
	小中学生 20人	12/15(日) 9:30 ～ 11:30 ⑤しめ飾りを作ろう：myしめ飾りを作って、新年を迎える準備をしよう 講師：長森南女性の会のみなさん			11/15	
	小中学生 15人	2/22(土) 9:30 ～ 11:30 ⑥「たぬきの糸車」：物語に出てくる糸車で糸をつむいで小物を作ろう			1/22	
〈子どもものづくりコース〉■夏の子ども教室	小学校4年生 ～ 中学生 20人	自分だけの絵皿を作ろう 7/20(土) 10:00 ～ 15:00 陶器に絵付けをして、自分だけの器をつくろう 講師：錬工房　纐纈錬一さん	受講料 1,600円（材料費込）	4/1	6/30	
	小学校5年生 ～ 中学生 20人	竪穴住居の模型を作ろう 7/23(火) 10:00 ～ 15:00 ①竪穴住居の話、柱を立てる　7/24(水) 10:00 ～ 15:00 ②屋根をふく、飾り付ける 講師：歴史博物館学芸員	受講料 1,200円（材料費込）			
	小学校3年生 ～ 中学生 20人	縄文土器を作ろう 7/25(木) 10:00 ～ 15:00 ①土器について学ぶ 土器の設計図を作る　7/26(金) 10:00 ～ 15:00 ②形を作る　8/18(日) 10:00 ～ 15:00 ③土器を焼く（保護者同伴） 講師：岐阜縄文土器クラブのみなさん・歴史博物館学芸員	受講料 650円（材料費込）			
	小学校4年生 ～ 中学生と保護者 5組	草木染めをしよう 7/27(土) 10:00 ～ 15:00 たまねぎで染める、染め物の話、藍で染める 講師：染色家　東海信子さん	受講料 1,200円（材料費込）			
	幼児 ～ 小学生と保護者 12組	美濃和紙&こうぞ&ワイヤーでオブジェを創ろう！ 8/3(土) 10:00 ～ 12:00 美濃和紙への"フロッタージュ"（こすり出し絵）&こうぞ（和紙の原料）&ワイヤーで自分だけのオブジェを創ろう!! 講師：造形作家「インスタレーション作家」　村上典子さん	受講料 800円（材料費込）			
	小学生 ～ 中学生と保護者 20組	からくり人形を作ろう 8/4(日) 10:00 ～ 16:00 スイングバードを作ろう！ 講師：玩具クリエーター　ろくさん・森島はるえさん	受講料 3,000円（材料費込）			
	小学校3年生 ～ 中学生と保護者 9組	印刷物のおもしろさを体験しよう 8/7(水) 9:30 ～ 12:00 ガリ版を使ってメモ帳やポチ袋のもようを印刷してみよう 講師：大東化工株式会社　川村晃子さん	受講料 900円（材料費込）			
◆土曜講座	一般 各回170人	6/29(土) 14:00 ～ 15:30 南蛮漆器の歴史と技術　講師：学芸員 三山らさ		4/1	開催日の前日まで	web または電話で申込
		7/20(土) 14:00 ～ 15:30 時計の歴史 -明治～昭和の時計生産-　講師：学芸員 渡部明日花		4/20		
		[redacted]		[redacted]		
◆まちなか博士サポート講座	一般 各回170人	9/7(土) 14:00 ～ 15:30 信長の「外交」～ 岐阜在城期を中心に ～　講師：学芸員 松島裕大		6/7		
		10/5(土) 14:00 ～ 15:30 鷺山遺跡群 -戦国時代の銅細工工房-　講師：学芸員 井川祥子		7/5		
		2/8(土) 14:00 ～ 15:30 江戸時代の町人文化　講師：学芸員 佐藤友理		11/8		

その他のイベント・申込方法については、展覧会チラシ・歴史博物館ホームページをご確認ください。

●加藤栄三・東一記念美術館（岐阜市歴史博物館分館）

〒500-8003　岐阜市大宮町1丁目46番地（岐阜公園内）TEL・FAX(058)264-6410

ホームページ
https://www.rekihaku.gifu.gifu.jp/katoukinen/

展　覧　会

第1展示室

展覧会名（会期）	休館日	内容
栄三・東一とゆかりの作家たち ～ 4月21日(日)	4/1・8・15・22・23	日本絵画の存続と新たな発展のため、画塾は新たな画法を受け入れながら、伝統的な絵画技法の継承や制作に取り組み、師から弟子へと受け継いできました。栄三・東一両画伯においても二人を慕い、二人のもとで研鑽を積んだ作家が多くいます。本展では栄三・東一両画伯の作品と二人の画業に心酔した作家の作品を展示します。
岐阜信用金庫創立100周年記念（公財）ぎふしん記念財団助成事業 加藤栄三・東一　風神雷神の世界 4月24日(水) ～ 6月16日(日)	5/7・13・20・27 6/3・10	（公財）ぎふしん記念財団からの助成により修復が完了した、栄三の「雷神」、東一の「風神」の下絵、素描作品を含む合計23点を初公開するとともに、その本画を特別に公開します。古典の探求から生まれた栄三の「雷神」、兄弟愛から生まれた東一の「風神」、二人の強い絆を感じさせる名作が岐阜県内で揃って展示されるのは28年ぶりです。また、東一に師事した日本画家・土屋禮一の「出現（雷神）」・「青空騒ぐ（風神）」もあわせて展示します。

第2展示室

展覧会名（会期）	
第2回女子美術大学岐阜支部展 ー ヴィーナスの集い ー	～ 4月21日(日)
小野允子　展	4月24日(水) ～ 5月12日(日)
書業七十周年記念　安藤秀川　回顧書展	5月14日(火) ～ 6月16日(日)

6月17日（月）～　構造補強工事のため休館

講　座

※講座会場は岐阜市歴史博物館となります。

■絹絵教室　全5回	申込開始	申込締切	■親子絵画教室　全1回	申込開始	申込締切	■版画教室　全5回	申込開始	申込締切
「バラを描く」 日　時：5/19・26・6/2・9・16（各日曜日） 講　師：日本画家　南谷具代さん 定　員：30人 受講料：2,000円（材料費別途） 時　間：(全)10:00 ～ 16:00	4/1	5/5	「親子で水彩画を描こう」 日　時：7/28(日) 講　師：示現会のみなさん 対　象：小中学生と保護者 定　員：15組(30人) 受講料：1組500円（材料費込） 時　間：10:00 ～ 16:00	4/28	6/28	「木版画で楽しむ年賀状づくり」 日　時：11/10・17・24・12/1・8（各日曜日） 講　師：版画家　五藤雅哉さん 定　員：30人 受講料：2,000円（材料費別途） 時　間：(全)10:00 ～ 16:00	8/10	10/10

web または往復はがきで申込

■ 利用案内

◎観覧料

	博物館／美術館	共通券
高校生以上	310円（250円）	520円（410円）
小中学生	150円（90円）	260円（150円）

（　）内は20人以上の団体料金
※特別展はその都度決めた料金

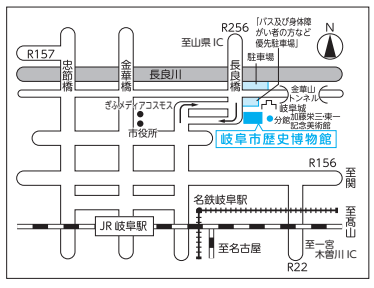
◎開館時間
午前9時 ～ 午後5時（入館は午後4時30分まで）

◎下記の方は無料で入館していただけますので、①②の方は証明できるものをご提示ください。（ミライロID可）
①岐阜市在住の70歳以上の方（特別展を除きます。）
②身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳、難病に関する医療受給者証の交付を受けている方、及びその介護者1名様
③岐阜市内の小中学生の方
④家庭の日（毎月第3日曜日）に入館する中学生以下の方と同伴する家族（高校生以上）の方（特別展を除きます。）

■ 交通案内

◎JR岐阜駅・名鉄岐阜駅から岐阜バスにて長良方面行き（所要時間約15分）、バス停「岐阜公園歴史博物館前」下車。徒歩約5分。（加藤栄三・東一記念美術館はロープウェー山麓駅横）

◎駐車場
・岐阜公園駐車場（1回310円、1時間以内は無料）をご利用ください。
・公園駐車場の利用時間は午前8時30分～午後9時までですが、季節によって延長することもありますので、岐阜市役所公園整備課（058-214-2182）までお問い合わせください。
・バスの駐車場など、詳細は岐阜市役所ホームページ（ページ番号1008007）をご覧ください。



■ 講座の申し込み

web申込（博物館または美術館ホームページ内の申込フォーム）にてお申し込みください。
◆土曜講座・まちなか博士サポート講座は、お電話でも受け付けます。前日までにお申し込みください。定員に達した場合は、お申し込みを締め切ります。
■その他の講座は、申込開始日以降、往復はがきでも受け付けます。締切日必着です。
◎講座名・郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号（緊急連絡先）を明記してお申し込みください。（往復はがき1枚につき1人1講座）。定員をこえた場合は抽選で決定します。
※子ども歴史講座・夏の子ども教室は往復はがきに学校名・学年も明記してください。
※親子や兄弟で一緒に1講座を申し込む場合は往復はがき1枚にまとめても可。抽選の当落や連絡はまとめて行います。
※web申込の方には、メールで抽選結果をご連絡します。各ホームページに結果通知のお知らせが掲載されているのにメールが届いていない場合は、博物館もしくは美術館へお問い合わせください。

●原三溪記念室（岐阜市歴史博物館分室）

〒501-6121 岐阜市柳津町下佐波西1丁目15番地（もえぎの里2F）TEL(058)270-1080　FAX(058)279-3586

日本の近代化を牽引し、文化芸術振興にも多大な功績を残した、岐阜市柳津町出身の原三溪を紹介する記念室。三溪ゆかりの人物や資料をテーマに、随時、一部展示替えをいたします。詳しくはホームページなどをご覧ください。

◎無料でご観覧いただけます。
◎開室時間・休室日は本館に同じ。ただし、4/30・8/13は休室。

岐阜バス茜部三田洞線　下佐波及びカラフルタウン行きに乗り、「下佐波」で下車、徒歩2分
岐阜バス茜部三田洞線　もえぎの里及び高桑行きに乗り、「もえぎの里」で下車、徒歩すぐ

ホームページ
https://www.rekihaku.gifu.gifu.jp/harasankei/

※この「催し物案内」の内容・日程・講座受講料等は、一部変更する場合があります。　※展示内容やイベント等は中止・延期・変更する場合があります。最新の情報は各ホームページをご確認ください。